

日本労働年鑑 1951年版(第23集)
The Labour Year Book of Japan 1951

第二部 労働運動

第二編 労働組合運動

第七章 主要な労働組合の現状

大化学産業労働組合

大化学産業労働組合(大化学)
(The Chemical Workers Federation of Japan:C.W.F.J.)

◇結成 一九四九年九月一七日

◇所在地 東京都港区芝新橋七ノ一二 電話芝(43)三一〇五

◇加盟機関 全労連

◇組織

大化学は化学産業労組の統一を目標として従来の業種別組合の協議会であった化全協を中心に産別の全日化が推進力となって五月に「大化学統一促進委員会」が結成され八月一七―九日に大化学産業労組の結成大会が行われた。しかし単産として正式に参加したのは全日化、業種別組織としては油脂労働組合全国協議会だけといわれるが、大化学としても組織方針として形式的な加入の方向をとらず地域的な化学労組の組織化をはかり漸次全国的統一組織に及ぼす方針であるといわれる。従って組合下部の組織、組合員数は確実には判明しないが凡そ二〇万人といわれている。なお一九五〇年一月の拡大執行委員会への報告資料によれば地域組織として結成済みのものは左の通りである。

九州化学労働組合会議

鹿児島県化学産業労働組合

播州化学労働組合

岐阜県化学労働組合

三重県化学労働組合協議会

愛知県化学労働組合

大化学関西地方協議会

富山県化学労働組合会議

東京地方化学産業労働組合

神奈川県化学労働組合

北海道化学労働組合

この外新潟、静岡に準備会が生まれ、福島、高知、山口、宇部、群馬等に統一の気運があるといわれる。

◇役員

執行委員長 若宮光三(理研ゴム)

副執行委員長 亀田東伍(保土カ谷化学)

同 久保田誠(薬全協)
同 未定
書記長 小椋佐鳥(昭電佐島)

◇綱領

- 一、吾等は労働者の生活権を確保し、基本的人権を擁護し、労働階級解放のため闘う
- 二、吾等は生産者たる誇りをもって、化学産業の復興を図り、新日本建設のため闘う
- 三、吾等は全労働階級の団結をかため全民主勢力の先頭に立って凡ゆる封建勢力とファシズムを打破するため闘う
- 四、吾等は全世界の労働者階級と提携して民族の自由と、平和と独立のため闘う

日本労働年鑑 第23集／1951年版

発行 1951年1月1日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2000年2月15日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1951年版(第23集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
